

30年にわたる盲導犬育成補助への貢献

日本自動車販売協会連合会

日本自動車販売協会連合会（自販連、金子直幹会長）は創立30周年を迎えた1988年、記念事業として盲導犬育成資金の募集キャンペーンを実施した。それから30年以上にわたり、障害をもつ人に「新しい生活」の基礎を提供する架け橋として、補助犬の貸与に取り組んでいる。

きっかけは、雪でスリップした車から主人をかばって重傷を負った盲導犬サーブが亡くなり、さまざまなメディアが取り上げるなど話題となったことから、記念事業として募金キャンペーンの贈り先としたのが始まり。「コーヒー杯の善意を全国の目の不自由な人たちへ」をキャッチフレーズに「盲導犬育

成キャンペーン」を展開した。募金は、会員ディーラーの社員

の善意と一般の厚意から1億2218万円に達した。これを基に90年2月、「公益

信託自販連盲導犬育成基金」を設立。盲導犬の育成・訓練やそれらに関連する事業に対する助成を行ってきた。盲導犬1頭の育成に対し200万円を盲導犬育成施設に提供してきた。

4回にわたり追加信託を実施して、合計3億6422万円を

20年3月、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会へ、盲導犬使用者証入れが付いた小型の「ハーネスバッグ」500個の製作費用を助成したのを最後に、基金は役目を終えること

になった。この活動は、誰もが安心して住み続けられ、行きたい場所へ気軽に行ける快適な町づくりに貢献するという理念を受け継いで、自販連各支部主導で継続。盲導犬だけでなく、介助犬や聴導犬など補助犬全体の貸与も可能とした。全国で稼働する補助犬の数は十分とはいえないことから、今後も継続して取り組んでいく方針だ。



障害をもつ人に「新しい生活」の基礎を提供

【選考委員コメント】30年以上活動を続けてきたことによる功績は大きい。全国各地で自販連による盲導犬の貸与は恒例の事業となるなど、長期にわたる活動によって盲導犬を必要とする人に届けるだけでなく、認知度向上にも貢献してきた。盲導犬育成基金は解散したものの、本部と支部が連携して助成するという形に変えて活動を続けており、今後の貢献も期待される。